

## 「救急の日・救急医療週間」に寄せて



那覇市立病院 紙尾 均

ご存じの先生方も多いかと思われませんが、那覇市立病院は3年以上にわたり常勤救急医が不在となっております。初期研修医を抱える総合病院で、救急科が消滅すると病院はどのようになってしまうか…想像をしたことがありますか…？

2021年5月に県立八重山病院救急科より紙尾、2022年9月に県立中部病院救急科より長堂が赴任し、救急科と救急医療教育の再建に取り組んできました。この場をお借りして、まだほんの一步ではありますが、私達の再建の取り組みについてご紹介させて頂きたいと思います。

赴任当初、予想をはるかに超えた状況を目の当たりにし、正直途方に暮れる毎日でした。夜逃げすることも考えました(本当です…)。この救急医療現場を立て直すために、アメリカ心臓協会(AHA)の講習会活動を利用することを考え少しずつ教育の輪を広げてきました。AHA講習会の受講は、時間・手間・お金もかかる事ですが、これは院内心肺蘇生技術の向上だけをもたらすものではありません。自己学習意欲の向上・成人教育学の習得・後輩の指導への積極的な参加といった様々な効果もたらされ、救急医療のみならず病院機能全体を向上させ得るものと考えたからです。

まず取っ掛かりは「教育を担う人材のスカウト」です。急病センター医師・看護師に声をかけ、AHA-BLSインストラクター資格を取得してもらいました。現在、急病センター医師・看護師のうち8名がインストラクターです。この戦力をもとに、今年度からは新規採用看護師・検査技師・事務職員75名全員へ、簡単ではありますが心肺蘇生術講習会を開催できるようになり

ました。さらにこれが契機となり看護部の協力が得られ、新卒看護師35名全員がAHA-BLSコースを病院負担により受講してもらえることとなりました！ 続けて、長堂医師の発案で、院内急変対応(RRS)の講習会を各病棟ごとに開催できるところまで、2年間で漕ぎ着けました。

来年度は、新病院オープンへ向けて看護師70名以上の採用を予定しており、全員にBLSコースを受講して頂く予定です。当院初期研修医プログラムではAHA-BLS&ACLS受講を必須としておりますので、併せて毎年少なくとも50名以上のBLSプロバイダーを誕生させることが可能となります。5年後には250名、10年後には500名の貴重な人材となるでしょう。ここからインストラクターが生まれれば、「教育のサイクル」が一巡することになり、これが次の目標となります。

今後は、既卒看護師にもBLSコース受講を広げていく計画です。さらに「那覇市立病院といえば小児医療」に対応すべく、AHA-PEARSコース受講にも手を伸ばすべく、まず長堂医師がPEARSインストラクター資格を習得してくれ、さらに急病センター看護師達もインストラクター資格取得に向けて走り出してくれています。まだ始まったばかりの再建計画ではありますが、2025年の新病院オープンに向け、質の高い救急医療と教育を提供できる病院へと前進していきたいと思っております。

\* AHA講習会につきましては、「日本ACLS協会」ホームページをご覧ください。

<https://www.acls.jp/>

